

EIWA UNIVERSE

第21号

発行日 2020年2月27日

「第13回富士市環境フェア」にブース出展しました。

ハイライト:

- 「第13回富士市環境フェア」にブース出展 (1p)
- 第12回駿河ふれあい福祉フェスタに出店 (3p)
- 2020年度学納金の納入期日・寄付の受付窓口拡充のお知らせ (6p)
- 大学後援会 特別講演会「マザー・テレサの『愛と奉仕』」を開催 (8p)

目次:

学長言	2
宗教委員会 ボランティアセンター	3
学科ニュース	4
研究室探訪 財務課	6
留学生センター 学生課	7
キャリア支援課 後援会	8

11月30日(土) ふじさんめっせで行われた県内最大級の環境フェア『第13回富士市環境フェア』にブース出展しました。(2019年7月16日 に富士市と連携及び協力に関する協定を締結済)

今年度の富士市環境フェアのテーマは【SDGs 体感プロジェクト】。

地球温暖化対策のための国民運動「クールチョイス」、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会の実現のための17の国際目標から構成される「SDGs (Sustainable Development Goals)」をテーマに、様々なコーナーが設けられました。

本学からは、人間社会学科 学生7名(毛利ゼミ)による「環境と観光」をテーマにした環境クイズと、食物学科 学生20名(前田授業クラス)による「エシカル消費」をテーマにしたお買い物ゲームの2ブースを出展しました。

毛利ゼミでは、富士山に絡めた環境&観光クイズを考え、ポスターの制作をし、子どもからお年寄りまで楽し

めるクイズを考案しました。250枚準備したクイズ用紙は開始から1時間ほどでなくなってしまい、急きよ追加コピーして対応するほど好評を博しました。

前田授業クラスでは、「食品学各論」の中で外部講師を招き、楽しみながら体験できるカードゲーム



『2030SDGs』を使いながらSDGsを学ぶ授業に取り組み、今回のブース出展に臨みました。

学生たちは来場者に積極的に声をかけ、交流の中から環境についての理解を深めました。また、今世界で起きている環境問題や、それらを解決するための行政や企業の取り組みに触れ、それぞれが環境問題について考えるよい機会となりました。

今回、本学公式キャラクター『かえでちゃん』が、初めて大学の外に飛び出し本学の宣伝に大活躍しました。フェアに来られた方々、特に親子連れに大人気!たくさんの方と写真撮影をしました。今後もこのような機会に積極的に登場してもらいます! (企画部 川口)



前田授業クラス お買い物ゲーム



毛利ゼミ 環境クイズ

たが あい あ
互いに愛し合いなさい

学長 柴田 敏



柴田 敏
(しばた さとし)
学長

昨年秋の楓祭では、茶道部のお茶をいただいたり、香るセッケンを

作ったりと、いろいろな体験をしました。ありがとうございます。

ダンス・サークルのパフォーマンスも見ましたが、静岡市内4大学の
合同チームという編成もあって、これはおもしろいと思いました。スポー
ツなら「4大学の対抗」となるところが、ダンスは合同なのですね。競い
合うというより、一緒に楽しむという感じなのでしょう。その「競い合わ
ない」、「競争しない」というところが、おもしろいと思ったのです。

さらに楓祭では、千葉茂樹監督の映画『マザー・テレサとその世界』
の上映と、千葉監督と中井弘和院長のトーク・セッションがありまし
た。マザー・テレサは、貧しい人への奉仕に一生をささげた人でした。
それはイエス・キリストの愛を、この世に表すことでした。マザー・テ
レサは、誰とも競争などしませんでした。

今は、世界全体が競争社会となっています。競争することで良いものが生まれ、競争するこ
とで社会が豊かになるといわれてきました。しかしどうでしょう。現代は、競争に勝った人がす
べてを手にし、負けた人はすべて取り上げられるような世の中になっていないでしょうか。競争
社会は、大きな貧富の格差を生んだのです。勝者が富を一人占めする世の中になっているので
す。

主イエスは、
互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。(ヨハネによる福音書15章17節)

と言われました。また、
いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。
(マルコによる福音書9章35節)

とも言われました。
人と競争し、勝ち、相手を押さえつける。そのようなことを繰り返しても、この世に平安は来
ないのです。

人とともに樂しめることが大切です。困っている人を支えることが大切です。

競い合って勝ったとしても、敗者への尊敬をなくしてはいけません。

十字架で殺され、この世の力に負けたとされた主イエスが、実はこの世の救い主でありまし
た。

その主イエスは、「互いに愛し合いなさい」と教えているのです。

宗教委員会

2019年度クリスマス礼拝を振り返って

今年も2019年12月18日に静岡英和学院大学・短期大学部のクリスマス礼拝が行われました。クリスマス礼拝までの本学の様子を振り返ると、11月の末日に大きなクリスマス・ツリーとイルミネーションを設置し、クリスマスの雰囲気につつまれました。その雰囲気は初めに、チャペル体験を通して、オープンキャンパスに来てくれた高校生たちにしっかり伝わったと思います。本学の学生たちはクリスマスのチャリティコンサートで恒例のクリスマス献金を集めてくれました。今年も吹奏楽部は新しい二年生の部長さんを中心に、クリスマス礼拝のために一生懸命練習していました。劇団Flameは新入部員も増え、クリスマス劇の発表のために遅くまでがんばりました。

礼拝の当日は、聖歌隊が少し心配でしたが、中心となる一年生の学生たちが頑張り、学長先生や先生方と一緒に、素晴らしい賛美を捧げることができました。今年も駿府教会の中村牧師がコーラスのために参加して下さいました。感謝です。キャンドルサービスの点火式も、やや緊張した様子でしたが、とても上手にできたと思います。人間社会学科、コミュニティ福祉学科、現代コミュニケーション学科、食物学科の学生たち全員でつくったクリスマス礼拝です。ここにすべての学科の学生たち、留学生たちが協力して



いることが、この学院に与えられた恵みであると感謝しています。

礼拝プログラムは昨年と同様、二部構成で、チャペルメッセージの後、吹奏楽団によるクリスマスメドレーの演奏、劇団Flameのクリスマス劇「純情夜灯籠」(「青春夜灯籠の続編」)が上演されました。吹奏楽のアーメン・コーラスと劇団Flameの迫真の演技に大粒の涙がこぼれました。世間的に

は私たちのクリスマス礼拝は注目されていませんが、学生たちの優しい気持ちを神が力強いご加護でおまもりくださった、とても豊かなクリスマス礼拝だと思っています。

チャペル礼拝は「神我らと共に」と題して、今年もタイ福音書からメッセージをしました。東方の博士たちが真理を探究してゆく姿に、キリストへの出会いを思い浮かべました。私たち、ひとりひとりが、「神に見出される存在」であるように、英和の

学生たちにいつか神の救いが本当の意味で見出されることを祈っています。

今年もまた本学の学生、教職員、事務職員の皆さんでクリスマス献金を捧げることができました。集まった献金は79,051円になり、児童福祉施設や本学の関連団体に全額寄付させていただきました。ご協力いただいた皆さまに宗教委員会を代表して心から感謝申し上げます。学院に関わるすべての方々に主の祝福が豊かにありますよう、お祈り申し上げます。

(宗教主任 大坪)

ボランティアセンターだより

第12回駿河ふれあい福祉フェスタに出店しました！

11月23日(土)に静岡社会福祉協議会駿河区地域福祉推進センター主催「第12回駿河ふれあい福祉フェスタ」が開催されました。

このフェスタは、駿河区民の社会福祉への理解を深めるために毎年催されているイベントです。静岡英和学院大学ボランティアセンターでは、2016年度まではコンスタントに出店をしてきましたが、昨年は学生スタッフが足りなかったため出店を断念。今年は参加したいと手を挙げた学生が7名いたため、輪投げの店を出店しました。



楓祭の準備と並行して手作りで輪投げを一生懸命作成しました。

当日は、前日までの雨で足元がぬかるんでいて、準備に手間どりましたがビニールを敷いて泥対策をしました。

「わなげ、やりたーいっ!!」と駆寄ってくる子供たちに、学生スタッフは優しく接し、輪に入ると「すごいね！上手だね!!」と声をかけていました。

今回、参加した学生は人間社会学科6名、コミュニティ福祉学科1名だったので、普段はなかなか小さい子供に接する機会がないような学生にとって、とてもいい経験になったと思います。

晴天で日差しの強い日でしたが、充実した一日となりました。

(ボランティアセンター 佐野)



人間社会学科

本学科では、昨年度から公認心理師国家試験受験資格科目にあたる「心理実習」が始まり、医療、司法、子育て支援、社会福祉の4分野（静岡市立病院、富士鷹岡病院、静岡少年鑑別所、静岡市社会福祉協議会）の施設に学生達が夏季休暇中、実習に行き実際の現場を体験してきました。来年度からは、上記に加え、教育、産業施設にも行く予定です。

また、多くの教員と学生達が様々な地域連携活動に参加し地域貢献しております。

今年度は、「令和元年度しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業」（牧之原市）に、畑ゼミ（日本古典文学）が採択されました。新元号の根拠となった『万葉集』へ世間の注目が集まった令和元年の今だからこそ、日本古典文学と自然との交流を、公園周知というミッションを通じて学ぶという観点に基づき、学生達は、市内住民へアンケートを実施して分析したり、チラシやポスターなどを作成したりしています。

市原ゼミ（日本語学）も昨年度に引き続き「しずおか中部

連携中枢都市圏地域課題解決事業」や「ふじのくに地域・大学コンソーシアム ゼミ学生等地域貢献推進事業」に採択され、「若者へのエイズ予防啓発及びHIV検査の周知」、「中高生へのエイズ予防・啓発」に取り組んでいます。啓発活動の一環として、学生達が起案したトイレトイレットペーパーなどが学内のトイレなどに設置されております（写真）。



人間社会学科教員および学生たちの活躍を今後もご期待ください。
（人間 永山）

コミュニティ福祉学科

福祉とキリスト教

来年度から本学科開講の「福祉とキリスト教」は、人間社会学科の「人間学基礎」へと一本化される。欧米の福祉関係の法律や援助の原理は、その起源をたどれば、キリスト教の教えを背景に成立している。我が国へは欧米からの福祉制度・法律の導入とともに、その理念・思想へも影響を与えています。例えば、「社会奉仕の精神（民生委員法）」、「無差別平等（生活保護法）」、「相互協力（社会福祉法）」、「共同連帯（介護保険法）」、「共生社会（障害者基本法）」などである。元来福祉の法律も含め「律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という一語をもって全うされる」（ガラテヤ）と法律全体を規定する。日本の民生委員制度の原型は、ドイツのエルバーフェルト制度で「貧困の原因の究明とキリスト教の隣人愛の実践による解決」であった。実際に貧困者と接し援助を行う救貧委員が無給の名誉職で構成されていた「心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。また「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ（ルカ）」。無差別平等においては、「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。、、、ユダヤ人も

ギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです（ガラテヤ）」。また「相互協力」、「共同連帯」（共同体）では、「各部分が互いに配慮しあっています。ひとつの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、ひとつの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、また一人ひとりはその部分です（コリント）」。さらに福祉実践の原理である「相手の立場に立つ」は、「あなたがたは、わたしが飢えているときに食べさせ、渴いでいるときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢屋にいたときに訪ねてくれたからである、、、私の兄弟であるこのもっとも小さい者の一人にしたのは私（神やキリスト）にしてくれたことなのである（マタイ）」。障害を持つ人へ思いやわかかわり方は、『この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか、、、』イエスは言う。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない、、、神のわざ（栄光）がこの人に現れるためである（ヨハネ）」といわれている。キリスト教の教えは、あらゆる福祉の法律、制度、実践にわたり隅々までその根底に染み渡っているのである。

（コミ福 佐野）

現代コミュニケーション学科

現代コミュニケーション学科の伊藤ゼミでは、男子プロバスケットボールチームのベルテックス静岡と連携し、2020年1月18日（土）19日（日）の2日間、清水総合運動場体育館でのホームゲームにおいてイベント企画を行いました。

ベルテックス静岡は、2019-20シーズンからプロバスケットボール、Bリーグ3部に参入したチームです。Bリーグはエンターテインメント性の追求を掲



げ、サッカーのJリーグのように地域密着型のプロスポーツリーグです。北海道から沖縄まで、ほとんどの都道府県がチームを持ち、各チームが試合だけでなく、魅力ある企画で集客を行っています。ベルテックス静岡は『スポーツで、日本一ワクワクする街へ。』をミッションとし、「人づくり」、「街づくり」、「夢づくり」を理念にしています。

伊藤ゼミでは、チーム協力のもと、EIWA DAYとしてホームゲームで試合前の演出の企画、イベント出演団体との交渉、グッズ開発と販売、ホームゲームでのボランティア、チーム公認のチラシづくり、選手へのインタビュー、チームの依頼でのラジオ出演、学食と連携し選手の出身地の郷土料理等のメニュー開発などを学生自身が行いました。ベルテックス静岡に満足いただけるように綿密な打ち合わせを行い、調整を重ねてきました。ゼミ活動でプロスポーツチームと連携できたことは、学生の自主性、社会性、協調性を養うのに貴重な体験になり、学生が日々成長する姿を目の当たりにしてきました。



今後も学生、そして地域のためにベルテックス静岡と連携していければと切に願っています。ご協力いただいたベルテックス静岡の選手の皆様に感謝いたします。

（現コミ 伊藤）

食物学科

「食」をキーワードにした学生の活躍



食物学科は2017年度より静岡市の「静岡カラダにeat75」事業に参加しております。

この事業の目的は、健康に無関心になりがちな若い年代に、食を通じた健康づくりの大切さを根付かせることです。取り組みの成果である「健康貯金スタートブック」が、2019年3月卒業した静岡市内の高校生に配布されました。

今年度の新規学生スタッフを募集する際、「これ、卒業の時も

らった冊子だ。英和の先輩が作ったのだね。家にまだ取ってある。」という声が上がリ、「わたしも参加してみたい」という流れとなりました。このように、冊子が「静岡カラダにeat75」に携った卒業生から後輩へのバトンとなりました。

（食物 清水）

また、9月には、「しずおかの食と出会う食農体験研修会」へ1年生9名が県立大、東海短大の学生17名とともに参加しました。実際に枝豆圃場で収穫をした後、フランス料理店オーナー



2019. 11. 30 ふじさんめっせにて

シェフによる試食会にて、清水区駒越の枝豆「サヤムスメ」の多様な活用方法を学びました。また、11月SDGsをテーマに富士山メッセ行われた富士市環境フェアでは、「食品学各論」の中で実施した外部講師からのレクチャーや、グループワークなどのアクティブ・ラーニングの成果を、「環境ラベルお買い物ゲーム」として1年生20名が実践しました。

このような、大学外での取り組みを通して、学生たちは大きく成長しています。次年度には、「食物栄養学科」に名称変更されます。半世紀余の食物学科の伝統と実績が身を結び、花を咲かせることができるよう祈っております。

（食物 前田）

研究室探訪



重森 雅嘉

(しげもり まさよし)

所属: 現代コミュニケーション学科

職名: 教授

研究テーマ: ヒューマンエラー(うっかりミス)のメカニズム解明、しなやかに安全な職場

短大に来てからは、高速道路のメンテナンス会社や地元の化学プラントなどから共同研究の依頼を受け、しなやかに安全な職場づくりを研究しています。事故の原因を探し出し、それを取り除いた完璧な手順を管理、遵守することにより安全が作り上げられるとする従来の安全モデルだけでは想定外の事象への対応や効率の著しい低下に関連した問題があることが最近指摘されています。このため、想定外の問題や効率・安全トレードオフ問題に柔軟に、しなやかに対応できる作業や組織づくりが求められています。これを現場で実際に展開するための研究として、役割とは関係なく自分から安全をリードする影のリーダーの特徴を解明したり、職場の労働災害防止対策を見直しを通して安全意識を高めるグループワークを開発したりしています。

私の研究

見間違いや書き間違いなどのうっかりミスの発生メカニズムを認知科学的に明らかにする研究を行ってきました。短大に来るまでは、鉄道の研究所でうっかりミスのメカニズム研究をベースに、鉄道運転士の適性検査や事故の原因分析手法の開発などに携わってきました。

短大に来てからは、高速道路のメンテナンス会社や地元の化学プラントなどから共同研究の依頼を受け、しなやかに安全な職場づくりを研究しています。事故の原因を探し出し、それを取り除いた完璧な手順を管理、遵守することにより安全が作り上げられるとする従来の安全モデルだけでは想定外の

社会貢献活動

企業の安全問題を具体的に解決するために地元企業と共同研究を行っています。

また、研究で明らかになったことを現場の安全

活動に役立ててもらうために安全講演を全国の様々な企業や病院などで行なっています。

ゼミ活動

ゼミでは私のもう一つの研究テーマである心理学のサイエンスコミュニケーションの実践を行なっています。サイエンスコミュニケーションとは、科学に関連した事柄に関し、科学者と科学者ではない人たちが考え方を共有するものです。私は科学としての心理学を、私(心理学者)と心理学者ではない方々たちが一緒に楽しむことができる方法を研究しています。ゼミでは、静岡科学館・くくるなどで心理学の体験展示を行うことにより、

さまざまな現象を科学的な心理学の視点で捉えることの楽しさを知ってもらう活動をしています。



財務課

～令和2(2020)年度 学納金の納付書発送及び納入期限について～

	前期 ※1	後期 ※1
納付書発送時期	令和2(2020)年4月上旬	令和2(2020)年9月上旬
納入期限 ※2	令和2(2020)年4月27日(月)	令和2(2020)年10月2日(金)

※1 学納金は、前期と後期の2期に分けて納入いただきます。

但し、新入生(1年生・3年次編入生)の前期分は、入学手続き時に納入済みです。

※2 家庭の事情等により、期限内に学納金の納入が困難な場合は、分割・延納が可能(別途手数料あり)ですので、学生課(Tel:054-264-8873)までご相談ください。

～ 寄付の受付窓口拡充のお知らせ～

本年2月からは、新たに「インターネット経由」による3方式の寄付が可能となります。詳細は法人HPの『寄付について』でご確認ください。

留学生センターだより

ここ何年かの定例となっている楓祭での出店、1月の国際交流フェアの他に、今年度の後期は、沼津城北高校での総合学習の講師としての留学生の参加や、2月にグランシップで行われる「春の音楽祭2020」の参加などが、新たなイベントとして加わっています。

音楽祭の参加については、県内の中学生や高校生の合唱部と一緒に、本学の留学生有志約20名が4曲を歌うことになりました。

もともと歌のサークルがあって、というわけではないので、急遽結成した留学生の合唱団です。10月から本学の山田美代子先生の指導のもと、毎週火曜日のお昼休みに練習を重ねています。山田先



生は留学生委員会の委員長でもありますので、毎週留学生に親しく指導していただくこと自体、たいへんよい機会を得たと感じています。日本語の歌を歌うことは、

当然日本語の発音や、語の意味を超えた表現の味わいにも触れるので、留学生にとっては貴重な経験です。また、大学の中で歌声が響くということが、秋の深まりと共に、情感を誘う雰囲気を作り出しているようにも思われます。
(留学生センター 磯貝)



「春の音楽祭2020」に向けて合唱に取り組む留学生

学生課だより

修学支援新制度について

2020年4月から経済的な理由で高等教育機関への進学・学修継続が困難な学生を支援する修学支援新制度がスタートします。この制度は、授業料と入学金の免除（または減額）と給付型奨学金の支給という2つの支援を行うもので、本学（大学及び短期大学）は国の定める要件を満たし支援対象校として認められています。

以下の要件を満たす学生は原則として支援対象者となります。

1 家計に係る基準

学生本人と生活維持者の住民税非課税世帯及びそれに準ずる収入であり、かつ、資産額の合計が指定基準未満であること

2 学業に係る基準

(2020年度入学者：以下のいずれかに該当すること)

- ・高等学校等の評定平均値が3.5以上、又は入学者選抜試験の成績が入学者の上位1/2の範囲以内であること
- ・高等学校卒業程度認定試験の合格者であること
- ・将来、社会で自立し活躍する目標を持って学修する意欲を有することが学修計画書により確認できること

(2019年度以前の入学者：以下のいずれかに該当すること)

- ・GPAが在籍学部（学科）の上位1/2の範囲に属すること
- ・標準修得単位数を満たし、かつ、将来、社会で自立し活躍する目標を持って学修する意欲を有することが学修計画書により確認できること

3 その他の基準

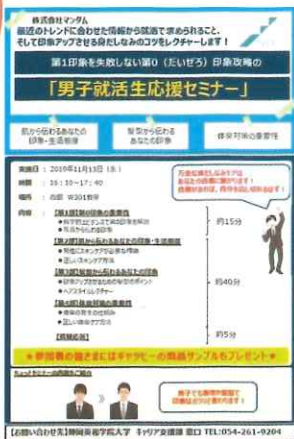
- ・高等学校を卒業した年度、又は高等学校卒業程度認定試験の受験資格を取得した年度や外国の学校教育課程を修了した年度等から本学入学までの期間が指定基準以内であること
- ・外国籍の場合は以下のいずれかに該当すること
法定特別永住者、在留資格「永住者」「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」、在留資格「定住者」で日本に永住意思のあること

この制度には人数制限はありませんが、採用後に学修意欲や成績が低い場合は支援が「打ち切り」になります。理由によっては返還を求められますので支援対象者は自覚をもって勉学に励む必要があります。

(学生課 松澤)

キャリア支援課

男子就活生応援セミナーを実施



11月13日(水)「第一印象を失敗しない第0(だいぜろ)印象攻略の『男子就活生応援セミナー』を開催しました。

大学3年生対象、月曜日5限「キャリアスタディ」の授業において、洋服の青山より講師の方をお呼びする「スーツ講座」、女子学生対象・

花王ソフィーナ担当の「就活メイク講座」は恒例の人気講座ですが、今年は、男子学生対象の講座を開催することができました。

当日は大学3年生だけでなく、短大1年生の男子も含め32名が出席し、株式会社マダムより講師の方に来ていただき、好印象を与える身だしなみについて学びました。

「第0(だいぜろ)印象」とは、直接会った時に与える第一

印象よりも前、応募書類の写真が与える印象のこと。ちょっとした変化で相手に好印象を持ってもらえることを、写真の比較により学び、「肌ケア」や「体臭ケア」については、実際の商品を使って体感しました。

学生は皆真剣に取り組み、「印象の大切さを実践的に学ぶことが出来た。とくに体臭については深く学ぶことが出来た」「就活における身だしなみの重要性について理解することができた」などの感想が寄せられました。

この講座の後輩へのおすすめ度は、未記入者を除き100%。女子・就活メイク講座のおすすめ度も100%。どちらも実践を伴う良い機会になったようです。

来年度以降も引き続き開講できるよう、調整していきます。履修者以外も受講できる講座ですので、積極的に参加してください。



(キャリア支援課 荒川)

後援会だより

大学後援会 特別講演会「マザー・テレサの『愛と奉仕』」を開催しました

楓祭の初日である2019年11月16日(土)に、大学新館5階楓ホールにて、大学後援会特別講演会「マザー・テレサの『愛と奉仕』」を開催しました。

講演会では、ドキュメンタリー映画

「マザー・テレサとその世界」の上映と、同映画の監督である千葉茂樹氏と本学院の中井弘和院長とのトークセッションを行い、一般の方々、本学学生及び教職員の合計143名の参加がありました。

映画は約40年前の作品ですが、マザー・テレサとシスター・ブラザー達が、当時のカルカッタで貧困や病苦に苦しんでいた人々を救うため、ひたむきでありながら実に生き生きと活動する



千葉監督(左)とマザー・テレサ(右)

姿に、時代を超えた「愛と奉仕」の実践が表れていました。

また、トークセッションでは、千葉監督から撮影時のエピソードをふんだんに紹介いただき、特にクリスチャンではない撮影スタッフが、シスター達から食事を分け与えられた時に、彼女達から「ありがとう」と声を掛けられ、心が大変満たされたというエピソード等から、宗教を超えた「愛」とは何かについて深く考えさせられました。

参加者からのアンケートでも好評の声を多くいただき、マザー・テレサのメッセージがいかに強いかを改めて実感させられる講演会となりました。

(総務課 小林)



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201

FAX 054-263-4763



静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

最新情報 <http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

ご意見・ご感想 info@shizuoka-eiwa.ac.jp